

第6回目

2012年7月27日(金曜日)
18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜か土曜の夕方に歩きます。

飛び入り歓迎
槍が降ったら中止します

広島2人デモ

雨天
決行



調査・文責：哲野イサク
チラシ作成：網野沙羅
URL：http://www.inaco.co.jp/isaac/
連絡先：sarah@inaco.co.jp

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった**2人でも歩く**。それが2人デモです。黙っていたら社会人としてだけではなく、企業人としても恥。
野田首相！あなたは恥を知るノダ！

「高浜原発再稼働」を高言する関電社長。自分の意のままになると確信している

大飯原発3号機に続いて4号機がフル稼働した7月24日の翌日、関電社長の八木誠氏は大飯原発にほど近い**高浜原発3・4号機を「次に稼働させたい」**と高言しました。高浜原発は原子力保安院のストレステストすら受けていないのです。彼はなぜこの時期に高言できるのでしょうか？**政府も官僚もマスコミも自分たちの意のままに動かせる**、と確信しているからです。(裏面参照のこと)

マスコミが報じない資料
地震の巣の上の
大飯原発

今回再稼働した3号機、4号機**(18日21時再起動)**は、かつて断層がずれたことを示す**断層破砕帯の真上に乗っている**ことが判ります。3号機・4号機は地震の巣の上に乗っているのです。

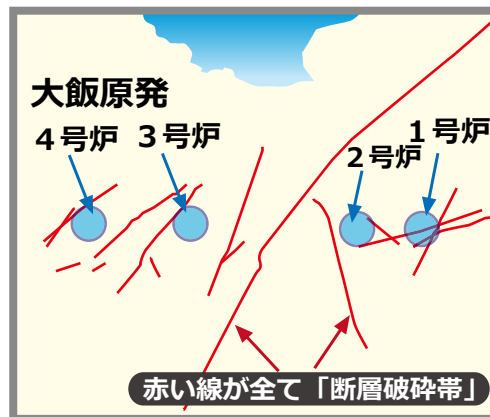
(大手マスコミはこの資料を報じていません)「大飯原発事故」の前に再稼働を止めましょう。

関電

「福島原発事故は終わっていない」

(国会事故調報告 - 2012年7月5日)

今からでも遅くない 大飯原発を止めましょう 「大飯原発事故」の前に 黙っていたら“YES”と同じ



出典：原子力安全・保安院「地震・津波に関する意見聴取会」
第19回平成24年7月17日配布資料
「地震・津波19-4」P7
「大飯発電所地質水平断面図(EL+3m)」図をトレース処理
http://www.nisa.meti.go.jp/shingikai/800/26/019/240717.html

反原発緊急国民政府の樹立を！

福島原発事故収束に全力をあげず、数字の詐術を使って「電力不足」で威嚇しながら、危険極まりない大飯原発の再稼働を強行し、私たちの「生活」と「健康」を、原子力産業の利益と引き替えにする民主党政権にはほとんど愛想が尽きました。とって自民・公明政権にも戻れません。彼らこそ原発政策を進めてきた張本人だからです。もうこうなれば何党でも構わない、反原発を掲げる人たちが国会を制して「反原発緊急国民政府」をつくる時ではないでしょうか？

猛暑日が続いても 余裕のある関電電力供給 なぜ？ 何が起きている？

7月半ばから暑い日が続きます。7月26日には関電管内**最高気温は35.5℃**に達しました。それでも関電管内**ピーク時使用実績は、2634万kW**でした。「**夏期最大需要3015万kW**。原発なしでは電力不足！」という話はどこにいったのでしょうか？そうです。これは政府・関電・マスコミ・関西広域連合が一緒になって作り上げたデマキャンペーンだったことがますます明らかになりつつあります。それが証拠に彼らは一切、**事前の過大な需要予測と実際使用電力の検証をしようとしません**。国民を威し上げて大飯原発の再稼働をさせればそれで良かったのです。**関電の電力供給能力は原発なしで3111万kW以上**あることが明らかになってきました。**欺されるのは「原発安全神話」一度きりで沢山です。**
(裏面参照のこと)

猛暑日が続いても余裕のある関電電力供給、なぜ？何が起きている？

原発を除く**関電発電設備約 2500 万 kW**に加えて、関電管内の独立発電事業者及び大規模事業者自家発電設備からの余剰電力購入が**少なくとも 500 万 kW**、他電力会社からの融通電力供給が**少なくとも 100 万 kW**あります。関電は原発なしで**少なくとも 3100 万 kW**の管内電力供給能力があります。関電はそれを知っていて「電力が不足する！」と主張しました。実際に不足していないことは関電自身の公表データから明らかです。その上**最大需要電力を少なくとも 300 万 kW も誇張**していました。これは8月に入って実際使用電力が公表されるにつれ明らかになるでしょう。なぜ、こんな詐術を使うのか？原発を動かしたいからだ、これがその答えです。

関西電力 ピーク時電力供給量と内訳 (7月9日から7月26日)

ピーク時最大電力供給能力 (原発除く：推計) **3,111 万 Kw 以上**
(原発を除く認可最大発電設備能力+他社受電 600 万 kW)

認可最大発電設備能力は火力・水力・揚水、合計 2511 万 kW

単位はすべて万 kW

33℃を超えた日

「最高気温」は関電発表のその日の最高気温。

2012 年			認可最大発電設備能力			火力発電		水力発電		揚水発電		原子力	他社受電 (内融通)					
日付	曜日	最高気温	ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	ピーク時刻	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	一定出力	ピーク時	ピーク時率	融通電計	中部	北陸	中国
7月26日	木	35.5℃	3,029	2,634	16:00	1,433	84.7%	270	71.4%	448	101.4%	237	643	19.8%	127	46	14	67
7月25日	水	33.6℃	2,886	2,514	15:00	1,313	77.6%	271	71.7%	432	97.7%	236	634	20.0%	127	46	14	67
7月24日	火	33.6℃	2,952	2,514	14:00	1,373	81.2%	270	71.4%	432	97.7%	237	641	19.8%	127	46	14	67
7月23日	月	32.5℃	2,924	2,328	16:00	1,373	81.2%	266	70.4%	432	97.7%	212	641	20.9%	134	46	14	74
7月22日	日	32.2℃	2,455	1,963	19:00	953	56.4%	263	69.6%	428	96.8%	202	609	22.5%	137	65	23	49
7月21日	土	32.9℃	2,639	2,052	13:00	1,084	64.1%	225	59.5%	448	101.4%	144	709	26.7%	189	100	24	65
7月20日	金	31.3℃	2,851	2,384	14:00	1,433	84.7%	270	71.4%	432	97.7%	118	599	11.7%	70	36	14	20
7月19日	木	32.5℃	2,853	2,546	14:00	1,470	86.9%	268	70.9%	430	97.3%	118	607	10.9%	66	46	14	6
7月18日	水	33.4℃	2,902	2,555	16:00	1,470	86.9%	274	72.5%	432	97.7%	118	607	9.2%	56	36	14	6
7月17日	火	34.9℃	2,831	2,540	16:00	1,380	81.6%	285	75.4%	432	97.7%	118	615	10.1%	62	36	14	12
7月16日	月	33.6℃	2,687	2,160	19:00	1,240	73.3%	278	73.5%	448	101.4%	118	604	20.7%	125	58	18	49
7月15日	日	34.1℃	2,514	2,016	19:00	1,140	67.4%	279	73.8%	448	101.4%	118	530	20.9%	111	58	18	35
7月14日	土	32.2℃	2,577	2,015	14:00	1,163	68.8%	281	74.3%	448	101.4%	118	567	21.7%	123	40	18	65
7月13日	金	31.2℃	2,645	2,301	14:00	1,236	73.1%	269	71.2%	405	91.6%	118	616	10.6%	65	36	4	25
7月12日	木	29.7℃	2,569	2,234	11:00	1,260	74.5%	262	69.3%	351	79.4%	118	578	11.2%	65	36	4	25
7月11日	水	30.7℃	2,520	2,180	16:00	1,200	71.0%	271	71.7%	342	77.4%	118	588	11.9%	70	41	4	25
7月10日	火	32.2℃	2,441	2,208	16:00	1,125	66.5%	266	70.4%	332	75.1%	118	600	10.8%	65	36	4	25
7月9日	月	32.3℃	2,363	2,114	14:00	1,043	61.7%	270	71.4%	341	77.1%	118	591	11.0%	65	36	4	25
ピーク時平均			2,702	2,292		1,261	73.0%	269	71.0%	415	94.0%		610	16.1%	99	47	13	39

1. 関西電力の「原発」と「新エネルギー」を除くピーク時最大発電能力は、火力、水力、揚水合計 2511 万 kW。(認可発電設備ベース)

2. 他社受電は、IPP (独立発電事業者)、自家発電設備などからの余剰電力及び他電力会社からの融通電力の 3 種類。

3. 他社受電は、ピーク時約 600 万 kW でうち融通電力は平均約 15% だった。従って他社受電能力はピーク時約 600 万 kW とできる。(実績ベース)

4. 従って関西電力のピーク時最大電力供給能力は、原発を除く自社発電能力 2511 万 kW に他社受電 600 万 kW を加え、3111 万 kW と推計できる。

5. 資料出典は関西電力ホームページ「でんき予報」の「過去の使用電力実績ダウンロード」及び「関西電力有価証券報告書 平成 23 年」

6. 大飯原発 4 号機は 7 月 21 日に送電を開始、7 月 24 日にフル稼働になった。(3 号機・4 号機とも定格出力は 117.5 万 kW)

他社受電のうち、他電力会社からはたったこれだけ

「高浜原発再稼働」を高言する関電社長。自分の意のままになると確信している

関電が保有する**3つの発電所の資産価値は約 3750 億円**です。また関電が保有する**核燃料の資産価値は使用済み核燃料を含めて約 5110 億円**、これだけで**8860 億円**です。そのほか送電・変電・配電・業務設備の原発関連分、投資その他関連資産のうちの原発分を加えれば、恐らく**原発関連資産価値は 1 兆円を超える**でしょう。それに対して関電の**純資産は 1 兆 8320 億円**に過ぎません。原発が廃炉と決まった瞬間に関電の純資産は 1 兆円を確実に切るでしょう。そればかりではありません。**廃炉費用・核燃料安全化費用あるいは廃棄処理費用は恐らく数兆円**に上るでしょう。関電が債務超過に陥ることは明らかです。これが関電が何か何でも原発を動かしたい理由です。(使用資料は平成 23 年関電有価証券報告書)